

令和 7年度（6年度決算分）高松市事務事業評価表【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	誰もが自分らしく健やかに暮らせるまち	評価担当	局名	健康福祉局
	政策	支え合う福祉社会の形成		課(室)名	地域包括支援センター
	施策	高齢者福祉の充実		電話番号	087-839-2811
	取組方針	生活支援サービスの充実と社会参加の促進		事業期間	令和 6年度～令和 13年度
	事務事業	地域ケア会議推進事業			

【事業全体概要】

事業概要	高齢者が介護や支援が必要になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、介護支援専門員に対する支援や助言を行うなど、地域の様々な機関等と連携・協力できる体制づくりを行う。 また、高齢者の自立支援に向けた個別ケアプランの検討や、複合化した問題を抱える高齢者の支援内容を検討し、課題解決を支援するとともに、地域課題の解決に向けた検討を行うことにより、地域包括ケアシステムの構築を図る。			
年度概要	地域ケア会議の開催 地域ケア小会議（地域課題、個別課題の検討）の開催 介護支援専門員を対象とした研修会・情報交換会の開催			
重点取組事業		市長マニフェスト	関連根拠法令	介護保険法 115条の4 8

【事業の目的】

対象（何を）	高齢者保健福祉・介護保険制度運営協議会委員、地域福祉ネットワーク会議構成員、高齢者を支援する地域の関係者
意図（どのような状態にしたいか）	多職種連携や地域の関係者とのネットワークを強化するとともに、個別ケースの検討によって把握・共有した地域課題を地域づくりや政策形成につなぐ。 介護支援専門員の実践力向上と介護支援専門員相互のネットワークを構築する。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
介護支援専門員からの相談実人員	人	0	0	1,165	1,100	1,150
介護支援専門員からの相談件数	件	0	0	2,135	2,200	2,300

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8	
		地域ケア小会議（個別課題）における検討件数	件	目標値 実績値	0 0	0 0	139 137	139	139
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）								
	個別ケアプラン検討 114件、個別ケース検討 23件を検討し、概ね目標を達成できた。			(目標達成度)	98.6%				
				(得点)	35点				
成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8	
			目標値 実績値						
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）								
				(目標達成度)					
				(得点)					

【コストの推移】

	単位	R 4(決算)	R 5(決算)	R 6(決算)	R 7(予算)
トータルコスト	[千円]	8,193	8,160	966	8,997
(事業費)	[千円]	709	633	966	1,277
(職員人件費)	[千円]	7,484	7,527	0	7,720

【事業内容と事業費内訳】

項目	事業内容	積算根拠等 (予算の増減理由)	事業費		
			総額		
令和 6 年度	地域ケア会議 年1回 地域ケア小会議(地域課題196回、個別課題61回137事例) 介護支援専門員を対象とした研修会・情報交換会の開催7回	地域ケア会議推進事業費 966千円	総額	966	
			特定財源	国	372
				県	186
				市債	0
				他	222
一般財源	186				
令和 7 年度	地域ケア会議の開催 地域ケア小会議(地域課題、個別課題の検討)の開催 介護支援専門員を対象とした研修会・情報交換会の開催	地域ケア会議推進事業費 1,277千円	総額	1,277	
			特定財源	国	491
				県	245
				市債	0
				他	296
一般財源	245				

【事業の評価】

区分	評価項目	評価基準	
妥当性	事業の実施が総合計画・市長マニフェスト等の目標達成や、事業の根拠等に結びつくか。	5	結びつく
	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか。	5	高まっている
有効性	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	5	貢献度が大きい
	住民福祉の向上に貢献しているか。	5	貢献度が大きい
効率性	事業実施手法としては最適か。	3	現状が望ましい
	類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性はあるか。	3	概ね効率的にできている

評価ランク	A (80%~ 100%)	A	総合点 (率)	96 / 100 (96%)	今後の方向性	継続
	B (60%~ 79%)					
	C (0%~ 59%)					

【昨年度の実施状況と課題】(評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)

地域ケア会議や研修会、各エリアの情報交換会を実施し、自立支援に向けた介護支援専門員のスキルアップに寄与した。

【今後の事業方針】(評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針・改善策を具体的に記入)

引き続き、介護支援専門員の実践力向上と介護支援専門員相互のネットワーク構築を支援する。
また、個別ケースの背景にある課題の分析や、地域住民や介護支援専門員等専門職の声を拾い上げる中で地域課題を見出し、地域の関係者と地域課題への対応等を共有・検討しながら、地域づくりの推進を目指す。

令和 7年度（6年度決算分）高松市事務事業評価表【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	誰もが自分らしく健やかに暮らせるまち	評価担当	局名	健康福祉局
	政策	支え合う福祉社会の形成		課(室)名	地域包括支援センター
	施策	高齢者福祉の充実		電話番号	087-839-2811
	取組方針	生活支援サービスの充実と社会参加の促進		事業期間	令和 6年度～令和 13年度
	事務事業	地域包括支援センター体制整備事業			

【事業全体概要】

事業概要	人口減少、少子・超高齢社会においても、地域包括支援センターのサービス水準を維持するため、1圏域（香川）において、民間活力を活用したモデル事業を実施し、運営体制の検証に取り組む。				
年度概要	1圏域の運營業務委託				
重点取組事業	重点取組	市長マニフェスト	関連根拠法令	介護保険法	

【事業の目的】

対象（何を）	高松市民
意図（どのような状態にしたいか）	人口減少、少子・超高齢社会においても、民間活力を活用することにより安定的な地域包括支援センターの運営を維持し、地域住民の心身の健康保持及び適切な支援を行う。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
総合相談件数（対象圏域）	件	0	0	3,062	2,860	2,950
地域ケア会議における個別課題の検討件数（対象圏域）	件	0	0	16	15	15

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8	
		民間委託を実施したサブセンター数	箇所	目標値 実績値	0 0	0 0	1 1	1 1	1 1
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）								
	1圏域（香川）において、モデル事業として運營業務の民間委託を実施した。			(目標達成度)	100.0%				
				(得点)	35点				
成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8	
			目標値 実績値						
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）								
				(目標達成度)					
				(得点)					

【コストの推移】

	単位	R 4(決算)	R 5(決算)	R 6(決算)	R 7(予算)
トータルコスト	[千円]	16,721	38,902	38,690	49,750
(事業費)	[千円]	9,237	31,375	30,970	42,030
(職員人件費)	[千円]	7,484	7,527	7,720	7,720

【事業内容と事業費内訳】

項目	事業内容	積算根拠等 (予算の増減理由)	事業費		
令和 6 年度	モデル事業業務委託	モデル事業業務委託料 30,970千 円	総額	30,970	
			特定財源	国	11,923
				県	5,962
				市債	0
				他	7,123
一般財源	5,962				
令和 7 年度	1 圏域の運營業務委託	運營業務委託料 42,030千 円	総額	42,030	
			特定財源	国	16,181
				県	8,090
				市債	0
				他	9,666
一般財源	8,093				

【事業の評価】

区分	評価項目	評価基準	
妥当性	事業の実施が総合計画・市長マニフェスト等の目標達成や、事業の根拠等に結びつくか。	5	結びつく
	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか。	3	横ばいである
有効性	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	5	貢献度が大きい
	住民福祉の向上に貢献しているか。	5	貢献度が大きい
効率性	事業実施手法としては最適か。	1	検討の余地がある
	類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性はあるか。	1	検討の余地がある

評価ランク	A (80%~ 100%)	A	総合点 (率)	90 / 100 (90%)	今後の方向性	継続
	B (60%~ 79%)					
	C (0%~ 59%)					

【昨年度の実施状況と課題】(評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)

モデル事業の検証を行い、その内容を踏まえ、令和7年4月から5年間、地域包括支援センター香川の運営を本委託することを決定し、公募型プロポーザルを実施し委託先法人を決定した。

【今後の事業方針】(評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針・改善策を具体的に記入)

委託事業のモニタリングを行うとともに、人員体制や費用対効果、委託先となる事業所の調査を行い、令和9年度以降の他の圏域の委託の可否について検討を行う。

令和 6年度（6年度決算分）高松市事務事業評価表【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	誰もが自分らしく健やかに暮らせるまち	評価担当	局名	健康福祉局
	政策	支え合う福祉社会の形成		課(室)名	地域包括支援センター
	施策	高齢者福祉の充実		電話番号	839-2811
	取組方針	認知症対策の推進		事業期間	令和 6年度～令和 13年度
	事務事業	認知症ケア推進事業			

【事業全体概要】

事業概要	認知症になっても本人の意思が尊重され、希望を持ってできる限り住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる社会の実現を目指し、認知症に関する正しい知識及び理解を深めるための普及啓発活動や家族の介護負担の軽減、本人の生きがいづくり等総合的に取り組む。				
年度概要	認知症初期集中支援チーム運営・検討委員会 認知症地域支援推進員設置 認知症普及啓発 認知症カフェ運営 チームオレンジの設置 認知症サポーター養成講座の開催 認知症サポーターステップアップ講座の開催 認知症の人を支える家族のつどいの開催				
重点取組事業		市長マニフェスト	5-	関連根拠法令	介護保険法 115条の4 5

【事業の目的】

対象（何を）	高松市民等
意図（どのような状態にしたいか）	認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けられる社会の実現

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
認知症地域支援推進員が受けた認知症相談件数	件	0	0	232	360	400
認知症サポーター養成講座受講者数	人	0	0	3,078	3,000	3,000

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
		チームオレンジ登録数	箇所	目標値 実績値	0 0	0 0	3 1	3 3
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
	チームオレンジの設置数については、件数増の予定であったが、地域の事情により令和6年度1件となった。引き続き、チームオレンジの立ち上げ支援に取り組む。			（目標達成度） 33.3%		（得点） 12点		
成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
	認知症サポーターボランティア数（累計）	人	目標値 実績値	0 0	0 0	85 91	105	135
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
	認知症サポーター養成講座受講者の増加や認知症への関心の高まりもあり、認知症サポーターボランティアになるためのステップアップ講座受講者が増加した。			（目標達成度） 107.1%		（得点） 35点		

【コストの推移】

	単位	R 4(決算)	R 5(決算)	R 6(決算)	R 7(予算)
トータルコスト	[千円]	22,189	25,760	15,051	272,106
(事業費)	[千円]	10,963	14,469	15,051	17,346
(職員人件費)	[千円]	11,226	11,291	0	254,760

【事業内容と事業費内訳】

項目	事業内容	積算根拠等 (予算の増減理由)	事業費		
令和 6 年度	認知症初期集中支援チーム運営・検討委員会 認知症地域支援推進員設置 認知症普及啓発 認知症カフェ運営 チームオレンジの設置 認知症サポーター養成講座の開催 認知症サポーターステップアップ講座の開催 認知症の人を支える家族のつどいの開催	認知症総合支援事業費 8,576千円 認知症高齢者家族支援サービス事業費 6,475千円	総額	15,051	
			特定財源	国	5,749
				県	2,874
				市債	0
				他	3,438
一般財源	2,990				
令和 7 年度	認知症初期集中支援チーム運営・検討委員会 認知症地域支援推進員設置 認知症普及啓発 認知症カフェ運営 チームオレンジの設置 認知症サポーター養成講座の開催 認知症サポーターステップアップ講座の開催 認知症の人を支える家族のつどいの開催	認知症総合支援事業費 9,919千円 認知症高齢者家族支援サービス事業費 7,427千円	総額	17,346	
			特定財源	国	6,677
				県	3,338
				市債	0
				他	3,993
一般財源	3,338				

【事業の評価】

区分	評価項目	評価基準	
妥当性	事業の実施が総合計画・市長マニフェスト等の目標達成や、事業の根拠等に結びつくか。	3	一部結びつく
	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか。	5	高まっている
有効性	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	5	貢献度が大きい
	住民福祉の向上に貢献しているか。	5	貢献度が大きい
効率性	事業実施手法としては最適か。	3	現状が望ましい
	類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性はあるか。	3	概ね効率的にできている

評価ランク	A (80%~ 100%) B (60%~ 79%) C (0%~ 59%)	B	総合点 (率)	71 / 100 (71%)	今後の方向性	継続
-------	---	----------	------------	-------------------	--------	-----------

【昨年度の実施状況と課題】 (評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)

認知症地域支援推進員の各サブセンターへの設置や、認知症フェアの開催による普及啓発事業など、各種施策を実施することで認知症本人や家族が安心して暮らしていける地域づくりに寄与した。また、認知症サポーター養成講座については、地域の団体だけでなく、小・中学生など、幅広い年齢層が受講し、認知症に対しての市民の理解を高めることができた。

【今後の事業方針】 (評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針・改善策を具体的に記入)

引き続き、各種に認知症施策に取り組んでいくことで、認知症になっても、希望を持って住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、地域づくりを推進していく。